

# 道徳科の授業から～絵本『わたしのいもうと』を通して～

Point: 自分の中には、いじめをしてしまう心も、いじめをなくそうとする心もあるんだ。

## 1 取組のねらい

いじめに対する指導は、当事者などに対して個別に行うことも多いが、やはり学級全体に対して、授業を通して行うことを忘れてはならない。

全学年でクラス替えがあり、4月当初から開かれた学級づくりを目指してきた。特によりよい人間関係を築くことをねらいとした道徳の教材を用いたり、体験的な学習も積極的に取り入れたりしてきた。しかしながら、友達に対する悪口や暴言があったり、ある友達を避けたりするという姿を見聞きすることがあった。さらに生活実態アンケートからも学級の中にはいじめられて悲しい思いをしている生徒がいることも浮き彫りになってきた。

生徒が、「これってわたしたちの中にもあることだ」とか「これってわたしたちの問題だ」と自分の問題として受け止め、同時に、憤りからいじめをなくそうとする姿になるような力のある教材に出会わせたいと願い、『わたしのいもうと』という絵本との出会いを考えた。

## 2 取組の内容

授業記録から

活 動 内 容	・ 生 徒 の 姿 / ○ 教 師 の 姿
<p>【第1時】</p> <p>1 教師が「わたしのいもうと」の絵本で挿絵を示しながら読み聞かせをする。</p> <p>2 感じたことを言葉で表現する。 自己を見返す</p> <p>3 感想について語る。</p> <p>4 「天国のいもうとへ」と題した手紙を書く。</p>	<p>① 「ともに感じあいたい絵本があります。」 『わたしのいもうと』 知っている人はいますか。」 ・ 1/3くらいの生徒が知っていると挙手。</p> <p>② 挿絵を見せながらいねいに読み聞かせをした。 ・ しっとりとした雰囲気の中で、絵本に注目する生徒、下を向きながら教師の話に聴き入る生徒など、それぞれの向きあいで、いつも以上にこの絵本に引き込まれていった。</p> <p>③ 「今心に感じていることを言葉で表現してみてください。1度か2度読んだことのある人も今の感想を綴ってみよう。」 ・ 「これって実話ですか。」とつぶやく生徒（実話をもとにしている） ・ 「これってわたしたちの中にもある」と気づき、綴っていく生徒もいた。</p> <p>④ なかなか感想を記入できないでいる生徒も見られたので、「今何考えているの?」「この部分の言葉がいいね」「以前に読んだときとどう?」などと声がけして、教材と向きあわせた。 ・ 全員が集中して感想を書き始めた。</p> <p>⑤ 「感想を語ってみよう」 A生：前読んでもらったときは小学生だったので、あんまり覚えてはいないけど、いじめは嫌だなあと思わなかったと思う。今回読んでもらったら、なんか心にジーンときた。いじめられている人は一生心に傷をかかえてしまうんだ。すごくせつなくてかわいそう。 B生：深くのめり込んで読めた。この本を読んで感じたことは、(主人公)</p>

	<p>がずっと背中を見せていて、顔は描いてなかったこと。だから悲しい絵本なんだろうと思う。</p> <p>⑥「絵本の最後のページにあったのは、いもうとから同級生への手紙です。自分たちは同級生になったつもりで手紙を書いてほしいと思います。」この資料を、自分だったらと自分に引き寄せることを目的に、「天国のいもうとへ」と題した手紙の用紙を用意し、配布した。</p>
<p>【第2時】</p> <p>5 自分たちの身のまわりの問題について考える。</p>	<p>⑦「前時書いた手紙をグループで確認しあってみよう」</p> <p>C生：「あなたのことは、けっして忘れていません。」</p> <p>D生：「あのときに戻りたい。そして、助けてあげたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちは、そのとき、何もできなかった自分を反省したり、戻って助けたいと強い決意をしたりする手紙を綴った。</li> </ul> <p>⑧「手紙に書いたことって、現実にはできそうですか。」</p> <p>「『これってわたしたちの中にもある。』と感じてくれた人もいます。そう感じる部分はどこですか。」などとつなげてみた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意できない部分。わたしもまわりに注意するとかできないと思うけれど、いじめられている人のそばに居て、話を聴くことならできるかもしれない。</li> </ul>

### 【感想の中から】

「わたしのいもうと」は、小学校4年生の時に担任の先生に読んでもらった本だったけれども、その時は、「いじめはよくない」「悪口はいけない」としか考えなかった。しかし、今回2度目の読み聞かせをしてもらったら、前回と少しちがう感想をもつことができました。それは、「人を忘れてはいけない」「いじめた人はいじめをすぐ忘れる。いじめられた人はいじめを忘れない」ということです。「人を忘れた」ということは、忘れられた人のことを全面的に否定されているという、最もひどい行いであると思う。

【資料】 『わたしのいもうと』 松谷みよ子／文 味戸ケイコ／絵 (偕成社)

いじめによって傷つき、登校もしなくなった私の妹は心を閉ざしたまま。

向こうをむいて、ふりむいてくれません。妹は体中につねられた跡があった。

妹をいじめた同級生たちは、そんなことなど忘れて中学生になり、高校生になっていきました。

いじめられた妹は、笑うことも無く部屋で鶴を折る。

お母さんは一生懸命に妹を救おうとするが……

妹は、楽しいことも体験できずに短い命を終える。

### 3 取組についての評価等

○この絵本そのものに生徒を深く入り込ませていく力があるので、初発の感想でもっと自己と対話しながら深く綴っていきたいと考えていた生徒も多くいた。集めた感想はどれも、1ページ近く書き込まれていた。しかしまだまだ途中の生徒も大勢いたので、自分のペースで自己と向きあう時間をもっと確保することで、もっと自分の（自分たちの）問題として引き寄せていくことができるのではないかと考えた。

○過去に扱った資料をもう一度扱うことのよさ。自分の問題にどのようにつなげていくか。など、教材研究や工夫によって、それぞれのねらいにもっと近づける資料でもあると感じた。

(『集まってひとつの花 生徒指導・人権教育取組事例集～いじめのない集団づくりのために～』(長野県教育委員会) より)